

教育のフロンティア

NO.286
2024 3- 月

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net>

E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本通言を配布します。



◆2/24:講座「子どもの人権、権利」第4回
講師/河野さんの「少子化時代を打開する社会へ」を基調に、4名から報告&交流しました

INDEX

P1: 巻頭言
P2: ヒューマントラスト/
運動、会費納入
クラブファン取り組み
p3: 講座4報告
p4-5: 実習レポート
～教育大札幌校
p6-7: 3学期
～つどい向け
～初等部あれこれ
p8: エッセー、カレンダー
(付チラシ、イベント他)

「新しい学び舎＝「つきさっぷ子ども館」の構築を！」

～クラブファンを活かしたもう一つの学校づくり～ 認定NPO法人 常勤理事会

自由が丘が「子ども達が主人公＝学び成長する主体」の教育・学び舎づくりを掲げてから 40 年近くになります。往時、学者・教師・父母・学生達が始めた運動の柱は、受験型学力偏重や画一・管理主義ではなく、『全人(人間形成的)教育』の理念でした。

その後、日本社会は少子高齢化時代となり、昨年の出生数 75 万人台(前年比▲5万)に激減しました。一方でいじめ・不登校児童は高止まりから急増*という状況は、既存学校教育の「制度疲労」が顕在化したともいえます。 *昨年 30 万人、(道内も 1.2 万人と毎年数千人もの増加。(遠因には競争過多・格差社会)

本来、児童が生活の過半を過ごすはずの学校が居場所でなくなってきたのです。

その中で、自由が丘は主に中学生の民間教育を実践して今年で 26 年目を迎えます。無学年オープンシステム・体験総合型学習・生徒企画行事などをコア*として、子ども達はそれぞれ目標とする道/進学を歩んでいます。近年は小学生が増加し、23 年度在籍 30 余名の内 20 名を超え初等部はフル稼働中です。 *加えて地域/余市農業実習・同友会・婦人商工団体や、大学生実習/教育大・北大・文教大等と協同

この流れをより本格化すべく、昨年末からクラウドファンディングに挑戦しました(目標 500 万、しかし直後に大震災発生、1-2 月多くの参加を頂き見通し 250 万)。皆様のご支援に改めて感謝致します。

私たちの学び舎は、①子どもも大人も共に安全・安心して居られ、②遊び合う・話し合う・相談する仲間がいて、更に③学び成長する機会が用意され主体的に参加参画できるような場、でなければなりません。そこでこそ、本物の《自由と協同》が追求/実現されていくと考えます。

寄せられた寄金・エールを土台に、'24 年度は新たな学園づくりをめざしていきます。教育内容・執行体制・施設拡充などについて、会員読者からのご意見やサポートをお願いします。

(編集子:この実践は昨春長沼町に開校した学学びのさと自由が丘学園/まほひ 学びのさと小学校とも連携しながら推進)